

## 麻田藩第二代藩主ゆかりの方廣寺

江戸時代、布木<sup>ふき</sup>から南の高平地区は現在の豊中市蛸池中町に陣屋を構えた麻田藩青木氏の領地でした。その領地の最北にあたる奥山の麓、末吉の地に庭園とされ桜、書家上田桑鳩<sup>うえだそうきゅう</sup>氏の作品で知られる方廣寺<sup>ほうこうじ</sup>は位置します。江戸時代の方廣寺は、端山<sup>たんざん</sup>と号した第二代藩主青木重兼の隠棲<sup>しげかね</sup>の地そしてその廟所<sup>びょうじよ</sup>(墓所)として、広大な境内と藩からの経済面の保護を得ており、歴代の藩主がたびたび参詣に訪れました。

方廣寺の由緒や藩主の参詣に関する主な資料は、市史第4巻近世資料に掲載しています。391号資料によれば、同寺は延宝年間(1670年代)に布木村にあった岩井寺という寺院を端山の隠居所に移して黄檗宗<sup>おうぼくしゅう</sup>の寺としたのが始まりといます。前身となる岩井寺については「南北一町二十間(約145m)、東西八町(約870m)」と東西に大変長い境内をもったことが記載されています。実はこの数値は392号に記載された明治4(1871)年時点での方廣寺の境内の数値とも一致しており、移転による寺院の創建のあり方を考える上で興味深い資料です。また現在の末吉区は隣接する川原区の区域の中に浮かんだ島のような地域となっています。しかし資料には岩井寺の移転先を「布木村新田末吉村」と記しており、当時の末吉村は山を隔てた布木村とのつながりが深かったことがわかり注目されます。

392号資料によれば、方廣寺には夢住軒<sup>たっちゅう</sup>という塔頭<sup>たっちゅう</sup>があったことがわかります。客殿のほかに蔵などが附属する簡素なつくりですが、実は84号資料にあるようにこの夢住軒こそが二代藩主の隠居所でした。この地に隠棲した端山は方廣寺の二代目の住職ともなり、10年の余生を送りました。現在も藩主の隠居所にふさわしい静かなたたずまいを残す方廣寺で、本拠<sup>ついで</sup>を離れた奥山の懐<sup>すみか</sup>に終の住処<sup>すみか</sup>を定めた藩主の想いに触れてみてはいかがでしょうか。